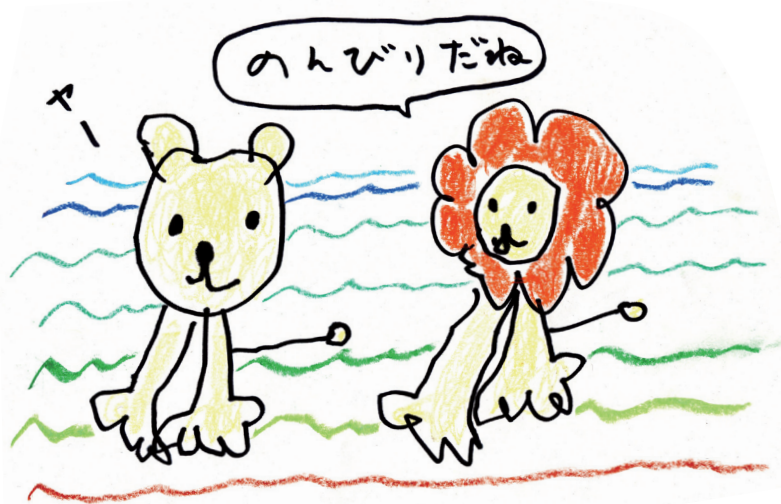


ダンスをしているおかげで本当に色んな人たちに会える。そしてたまたま「体操」の名のつく仕事をしているせいも体操のお兄さんとも思われている。さらに子どもがいるためか「男の子育て」の取材も多い。不思議である。といっても僕が子育てに熱心だったり上手な訳ではない。つい先日はずいぶん前からよく動かしているのに娘を頭上にあげたとたん「背中のぎっくり」みたいになってしまった。情け



Artist Diary 喜怒哀楽の日々 2月7日木曜日 文=近藤良平 イラスト=近藤良平・ニナ

ない現実である。今、家族の中で一番足の速いのは2匹の犬達で、次に子どもが僕か?という所である。これではコブいのだ。そして娘に絵を描かせれば「むむむ」と唸る程、シニールで活かした絵になる。見方を変えれば子どもは好き勝手に自由な訳だが、僕らもそのはずである。そして日々がんばらねばと思うのです。

話は変わるが今「喜怒哀楽」というコトバが気になる。「喜、怒、哀」の感情はいやおうなしに突然、訪れるのだが「楽」だけは、どうも能動的なのだ。「楽」すは、向こう側からは訪れないのである。僕は意外と舞台を創ったりビールを飲んだり「楽しむ」のは得意な方なのだが、みんなはどうなんだろう。何が「ステキな生活」なのだろうか。まあ、これは僕の中で大発見なので今年の5月の埼玉公演まで、その真意を追い求めようと思っている。たった今は春が待ち遠しい。やはり日本において一年の始まりは「春」なのだ。景観は、もすろん春なのだが、いくつになっても、そう！新入生の気持ちでいたいものです。

